

## 10月・11月の予定

### 【会議等】

10月14日(木) 活動報告会(16時)  
11月18日(木) 活動報告会

### 【調査団等】

9月24日～10月23日  
「ダマスカス都市計画予備調査」  
10月2日～10月20日  
「水資源情報センター整備計画終了時評価」  
10月2日～10月23日  
「ダマスカス市水道水源拡張計画基本設計調査」  
10月3日～10月7日  
本部地域部担当職員 日比野崇  
10月10日～10月16日「視察の旅」

### 【専門家・ボランティアの動き】

#### 【業務出張】

10月1日～10月14日ウズベキスタン出張  
(現状調査、セミナー講演)  
片山克己 専門家

#### 【帰国】

10月09日離任 松本典子 JOCV  
10月16日離任 白橋めぐみ JOCV  
10月20日離任  
阿野貢 SV、治武治夫 SV、吉谷川泰 SV  
10月30日離任 大石銑太郎 SV

#### 【着任】

10月20日 新SV8名+奥様1名  
京和徳(機械保守) 日永田晴海(火力発電)  
長嶋正明(マーケティング繊維製品)  
福島弘一郎(計測・制御) 松崎達(鋳物)  
高塚三郎(プラント・機械保全)  
小林紀子(グループコーディネーター)  
田村一郎(グループコーディネーター)

#### 【一時帰国】

9月16日～10月17日 村田洋一郎 SV  
10月18日～11月18日 伊藤康広 SV

#### 【健康管理旅行】

10月29日～12月4日 西川洋昭 専門家

#### 【所員の動き】

##### 【業務出張】

10月18日～10月21日  
ヨルダン平和構築会議  
長澤一秀 所長、武市直己 企画調査員

##### 【健康管理旅行】

10月21日～11月17日(予定) 鈴木美花  
10月22日～11月21日 船場玲子

##### 【行事】10月8日 日本人会運動会

## 事務所より

# 日本語教育の現場から

ボランティア調整員 岩田 章一

シリアにおける日本語教育は、当事務所の4つの援助重点分野の中の「観光振興」プログラムに位置付けられています。現在、日本語教師隊員はダマスカス大学とアレppo大学に3名派遣されており、来年4月には各2名体制とし重点的に今後も協力をを行う予定です。

去る8月末にカイロにて中東派遣中のボランティア等出席のもと、国際交流基金のセミナー及びJICA中東日本語教師会議も実施されました。会議では、各国の活動報告、問題点や情報の共有などを議論し、今後は積極的に地域間の連携を深めていき、日本語教育の底辺拡大を目標に、出席者の意思統一が図られました。

今回は日本語教育特集として、歴

代隊員の積み重ねた努力の歴史の上に立つ派遣中の隊員の報告をお伝えします。また、アレppo大学日本センター副所長(元日本留学生)、ダマスカス大学で日本語教師の卵として活躍しているシリア人アシスタントが自ら日本語で書いた報告もありますのでご覧ください。



カイロで開催された会議出席者一同

## 寄稿

# アレppo大学から

アハマド・アルマンスール

アレppo大学学術交流日本センター副所長

アレppo大学学術交流日本センターは、創立以来日本語を教えてきました。その時からJICAの協力は欠かせないものであり、ともに歩んでくださったJICAに、心からの感謝と尊敬の意を表したいと思います。創立当初は、日本語の先生を一人派遣して頂いていましたが、2002年より日本語が文学部で第二外国語になり、また、本センターで日本語を勉強している学生の数が増加したことで、現在は二人の先生を派遣して頂いています。

JOCVの先生方は、アレppo大学のモットー「数より品質」に応じて一生懸命高い教育レベルを保ってきました。結果として、本センターの学生が、

シリア国内における日本語スピーチコンテストで優勝または入賞するという事が増えてきました。

日本センターは引き続き日本語の教育に力をいれ、近い将来、アレppo大学で日本語学科を設立するべく努力を続けています。実現までの道のりはまだまだ遠く、様々な課題を克服しなければなりません。JICAとの協力によってその希望が叶えられたらと思っています。



授業中のマンスール先生

## 活動報告

### アレppo大学日本センターコース紹介

北村知子 (JOCV 14-2)  
日本語教師：アレppo大学

教師「行きます」  
学習者「行って」、  
教師「読みます」  
学習者「読んで」  
教師「食べます」  
学習者「食べて」……。

これは何だかわかりますか。現代日本語では動詞が「て」とつながるとき、さまざまな音の変化を起こします。「行きて」「読みて」とはいけません。日本語を母語とする人ならば、次に「書きます」ときけば即座に「書いて」といえると思いますが、学習者たちはもちろん知りません。ですから、それぞれの変化のルールをおぼえ、ちゃんと言えるように練習するので

す。現在、アレppo大学学術交流日本センターでは、学生、一般社会人など約40名の学習者が日本語を勉強しています。その半分は入門レベルで、残りの半分が2人から5人位のクラスで、レベル2から

レベル9までを学んでいます。上の「て形」を学習している人はレベル3の5人です。

日本語コースは、毎年2回、開講されます。2月から5月まで、と9月から12月までの間の約12週間が1コースです。週に2回、1回2時間の授業で1コース48時間学習します。

学習する理由は、日本文化(アニメ、武道など)日本の技術力に興味がある、将来日本へ留学したい、語学の勉強が好きだから、ただなんとなく、など様々です。仕事や生活で日本語が必要だということがないので、クラスの雰囲気はのんびりとしています。

日本語の文法は難しくないと言います。人称や性による動詞の変化がない、単数、複数が同じ点かと思えます。しかし「て形」をみればわかるように、やはりこつこつ覚えなければならぬこともあり、中には定着しない学習者もいます。これを乗り越

えさせようと、手を変え品を変え練習するのです。

シリアで日本語を使う機会はほとんどありません。だからこそ授業中では日本語を使ってもらいたい、日本語を使うことで何かできた、という経験をしてほしいと思っています。会話練習では、臨場感をだすためにレストランのメニューや図書カードなどの小道具をつくったり、電車やバスの行き先をたずねる時には、地図をつくったりします。全部うまくいくわけではありません。ホテルでの会話やATMの使い方など、学習者の実体験があまりない場合は、一文ごとの意味はわかっても、自分が何をしているのかわからなかった、ということもあります。やはりその国、その学習者にあったもの、興味のあることを選ぶことが大切だと思い、毎回知恵を絞っています。



授業中の北村隊員

## 活動報告

### 子どものための日本語コース

椎名美子 (JOCV 14-1)  
日本語教師：アレppo大学

「日本語の子どもコース、やってくれない？」

ある日、職場の事務長さんが、そんな事を言い出したのが、子どもコース開講のきっかけでした。

シリアでは、職場に自分の子どもをつれてくることも珍しくありません。事務長さんの息子、10歳のアハマドしかり。事務長さんにくっついてきては、ちょろちょろ遊びまわっているうちに、日本語にも興味を持ち、自宅には聞きかじったものをまとめた日本語単語帳があるのだとか。そんなアハマドですが、今までは、事務長さんに「まだ早い」と言われ、日本語コースを受講

してはいませんでした。しかし、高校生のお兄さんが日本語コースを受講し始め、アハマドもいよいよ習いたくなり、子供用のコースはないものか、という話になったわけです。私としても、アハマドに限らず、子どもが体験的に日本語を学ぶ機会があったら面白いなと思い、子どもコースについて考え始めました。

しかし、子どもの教育に関して、何の知識も経験もない私。しかも、相手にするのは、授業中、棒でピシピシ叩かれてもまだまだお喋りが止まらないシリアの子どもたち。そこで、目が届くように、贅沢にも、受講者を6名

に制限、年齢は10歳から13歳までとしました。そして、シリアの子どもが興味を持って学べることを、習ってすぐ使えることを基準に学習内容を精選し、1日45分(シリアの小中学校の1コマ分)、4日間というコースにしました。また、日ごろ子どもたちを相手に活動している隊員たちから前もって話を聞き、そこで得られた情報も参考に、授業を計画していきました。



アレppo大学日本語コース全員集合！

コースの内容は、以下の通りです。

1日目: あいさつ(6つ)を、絵を用いて紹介。口頭で言えるまで練習してから、あいさつの絵の小さいカードで神経衰弱ゲーム。めくったカードのあいさつを言いながらの神経衰弱。

2日目: 自己紹介、他人紹介。「私は(名前)です」「こちらは(名前)さんです」「年生です」「はじめまして」などを練習。言えるようになったら、最後に自己紹介しているところをビデオ撮影。

3日目: 「 が好きです」「 が好きじゃありません」「 が好きですか」など。各自に好きなものをアラビア語で発表させ、それに対する日本語の単語を紹介、自分の好きなものを言えるようにする。また、「学校」「ダンス」「お母さん」などのお題を出し、互いに、「学校が好きですか」などと質問しあう。相手の回答を聞き取り、ワークシートにメモする。

4日目: 「～～を食べます」「～～を飲みます」を学習。食べますの目的語としては、お菓子の名前、飲みますの目的語には水、ジュース、紅茶を学習。他の人に「水を飲みますか」などと勤める場面を設定し、「はい、いただきます」「いいえ、結構です」という応答も学習した。

「いいえ、結構です」と子どもがしゃべっていると、何ともおませな感じなのですが、後に通常の日本語コースを受講する可能性を考え、教科書で入門期に扱うデスマス調を教えました。

さすが脳が若いだけあって(?)、子どもたちはどんどん覚え、発音もとても上手になりました。子どもの数を絞ったこと、それから、子どもたちも、新しい言葉の学習に興味いっぱいになってくれたことで、皆授業に集中し、心配していた学級崩壊にも至らずに何とか乗り切れました。騒いでしまうということは、裏を返せば、とても素直で、感情表出が豊かであるということ、授業中の反応は頗る良く、教える

側としても、本当に楽しい授業となりました。

最後の授業が終わった後、ある子どもが家に招待してくれました。家では、お母さんに、習った日本語を得意気に披露、お母さんも目を細めて聞いていました。日本語を使う機会がほとんどないシリアなので、習った内容はきっと忘れてしまうでしょう。だからこそ、日本語を学んだことが、家族の中で明るく語られているというのは、私にとって何よりの嬉しい光景でした。



授業中の椎名隊員

## 活動報告

### ダマスカス大学日本研究センター

渡邊洋子 (JOCV 一般短期)  
日本語教師: ダマスカス大学

ダマスカス大学日本研究センターは、大学附属語学センターのひとつで、99年にJOCVが入って始まりました。公開講座で高校生・大学生・社会人が、現在50名ほど学んでいます。1コース(1回2時間×週3回×10週間)は1000L.S.(ちなみに英語コースは6週間で4000L.S.)で、年4コースあります。語学センターには草の根無償で設置されたLL教室もあります。

教師はJOCV1人、シリア人アシスタント2人です。1人は今月下旬から半年、浦和で国際交流基金の日本語教師研修に、もう1人も来年1月から同短期研修(2ヵ月半)に参加します。両者とも当センターで日本語学習をはじめ、教壇に立つまでになりました。5年経って、やっと成果が目に見え

てきたというところです。

生徒たちの学習動機は、日本文化への興味(とくにアニメ)、語学学習が趣味、留学を夢見て(とくに理系大学生)といったところです。日本語学習を続ける生徒たちは、概して礼儀正しく穏やかで、日本人のメンタリティーに共感できるようです。

アラビア語話者はみな耳がいいので、授業で「机の上に花が<sup>が</sup>あります。」という文について、「先生は[が]と言うのに、テープは[が鼻濁音]と言っています。どうして違うのですか。」というような質問をされたりします。(単に、わたしが助詞「が」の鼻濁音ができないだけです。)テスト至上主義で育てているので、どんな小テストも抜き打ちではやらせません。いろいろありますが、実利を求めず、

純粹に日本語や日本人を理解しようとしてくれている彼らに感謝です。コースのカリキュラム消化に忙しく、会話練習や日本文化紹介になかなか時間を取れないのが悩みです。2ヶ月に1回は日本映画の日を設けています。12月には恒例のスピーチコンテストがあります。来年はアレppoのように、ジャパン・フェアを開催したいと思っています。その際は、皆様のご協力をお願いしたいと思います。生徒たちは日本人との交流をいつも楽しみにしていますので、いつでもセンターに遊びに来ていただけたらありがたいです。



左から2番目が渡邊隊員

## 寄稿

# 私と日本語

ムハンマド・バグダーディー  
ダマスカス大学日本研究センター・アシスタント

私は4年前に日本語の勉強を始めました。日本語や日本文化を身につけようと思いました。それから日本語学習に魅了され、私の人生は日本語と関わっていくと感じるようになりました。

実際、日本語は私の人生で大きな意味を持ちました。日本語のおかげで日本の文化や習慣などを身につけたり、日本人の友達と仲良くなって、一緒に楽しい時間を過ごしました。一番思い出に残ったのはトルコに日本語能力試験を受けに行ったことです。市嶋先生のサポートのおかげで3級に合格して、新しい道が始まりました。初級レベルで日本語を教えることになりました。この経験は私にとって重

要なものとなりました。私は学生のとき日本語を習ったように、アシスタントになった後も、時間を守ることや仕事に熱心に取り組むことなどを学びました。

私たちはこれから日本研究センターで、日本人教師とシリア人教師が対等に協力しながら教育を行うことを目標にしています。

私が思うに、シリアでボランティアと援助に関して間違った考えがあります。それはボランティアがシリアに働きに来て、シリア側ではなく、日本側から給料をもらっているという認識がありますから、自分達は何もしなくてもいいと考えている人が多くいることです。私たちシリア人は日本人ボラン

ティアと協力して、もっと経験を積む必要があります。そして、次のボランティアが来たとき、仕事をまた一から始めるのではなく、さらに新しい仕事をなしとげる必要があります。この積み重ねがシリアの発展に寄与するはずで

す。私は今年の9月から国際交流基金の日本語国際センターで長期研修に参加します。一生懸命勉強して、より経験を積んだ教師になって帰ってきます。



カタカナを教えるムハンマドさん

## 寄稿

# 一番の幸せ

アマル・ハザン  
ダマスカス大学日本研究センター・アシスタント

初めて日本語を勉強したのは6年前でした。しかし2か月後コースがなくなって勉強できなくなり、とても残念でした。

その1年後新しいコースが始まって、何も考えずにすぐ登録しました。川崎先生の教え方はすばらしくて、その時教師になる夢が生まれました。それから大阪外国語大学で1年日本語の勉強の機会をいただきました。

シリアに帰ってから私の夢を実現させる人は市嶋先生でした。彼女は私の授業を見たり、間違いを直したり、本当に彼女のおかげで日本語がもっと好きになって、続けたい気持ちが大きくなりました。私にとって一番幸せを感じるのは、学生から質問があ

って、それに私がちゃんと答えられ、その答えによって理解した学生の顔に喜びの笑みが浮かぶことです。彼らが自分から理解しようとして、それに自分が応えられた時、学生と私の気持ちがとても近くにあって、かれらの役に立てることを幸せに思います。

最後に一言言いたいことがあります。私に最も影響を与え、いつも心を込めて仕事をしている二人「川崎先生と市嶋先生」に深く感謝しております。

来年2か月日本で研修を受けます。将来いい日本語の教師になれるようにこれからも頑張りたいです。

\* 編集部注:川崎先生(JOCV10-2)、市嶋先生(JOCV12-2、シニア短期緊急)



テーブを使用して授業するアマルさん



日本留学前のムハンマドさん送別会

We are on the WEB. See us on [www.jica.go.jp](http://www.jica.go.jp). [www.jicasr.org](http://www.jicasr.org)

### お知らせ

本ニュースレター配信ご希望の方は当事務所まで氏名、メールアドレス、JICAとの関係(所属)を連絡願います。

### 編集後記

あっという間に2ヶ月間が過ぎてしまいました。わずか2ヶ月でしたが、たくさんの貴重な経験を積むことができたことは言うまでもありません。それもこれも、シリア事務所関係者皆様にご指導・ご鞭撻いただいた結果であり、シリア事務所に来ることができて本当に良かったと思っています。シュクラン・ジャージーラン。(インターン山本)